

やるきのんきこんき
Easy Going Farm
広報誌「NO N KI」
Vol.10 2018.8

EASY

GOING

FARM



6次産業化アワード 奨励賞 農福連携賞 社会福祉法人唯一の受賞

平成29年10月に6次産業化推進協議会が主催するコンペティションの募集が始まりました。社会福祉法人E・G・Fの取り組みは応募に値する活動ではないかという声をいただき応募させていただきました。結果、全国90団体の応募の中からE・G・Fを含む11団体が2次審査へ進み、平成29年11月に選考委員の現地審査がありました。当法人の取り組みを説明する中で『社会福祉事業なのに民間と遜色ない活動されている』と好評化を得ました。2次審査の結果【奨励賞 農福連携賞】という賞をいただき、平成30年3月1日東京都港区ホテルアジュール竹芝で開催された表彰式に理事長、総合施設長、スタッフ伊藤が参加しました。奨励賞の中では唯一の社会福祉法人の受賞であり、他の民間企業はまさに商売の専門家といった感じでした。そんな中での受賞は障がい者であってもやり方と取り組み方で十分勝負出来るといった自信に繋がりました。前年のディスプレイ農山漁村の宝につぐ受賞です。利用者とスタッフの頑張りが評価されたことは非常に喜ばしいことでした。

6次産業化アワード 奨励賞

農福連携賞

社会福祉法人E.G.F

社会福祉に農業生かす



障がい者スタッフ

事業者の概要

- 所在地 : 山口県萩市
- 代表者 : 理事長 野稻 忠男
- 売上高 : 2億2千9万円 (H27) → 2億9千9百万円 (H30)
- 従業員数 : スタッフ49人・障がい者63人
- URL : <http://e-g-f.jp/>

事業の内容

社会福祉法人を利用している障がい者に仕事をしてもらうのが基本であり、それに適した仕事<作業>が農業というスタンスを取っている。イチゴやメロンの栽培では、障がい者が育てたことを極力伏せ、品質勝負で市場に出し高い評価を得ている。また、リンゴジャムの生産では障がい者が一つ一つ手で剥くため、加工した際にきれいな色になると評判だったので、この利点を生かし、ボイル冷凍カット野菜の加工場を設置し、福祉事業所として取り組んできた。



障がい特性を活かした作業

強み・ポイント

扱う品目が徐々が増え、手づくりの良さが評価されている。スタッフも異業種経験者に福祉を学んでもらうという姿勢を基本にしており、スタッフは障がい者の可能性を見つけることに使命感を持ち、かつ適正な量の取引という方針を念頭に置いている。現在、60人の障がい者はグループホームで生活しながら基礎年金7万円に加え、3万円の収入が得られるよう工夫している。

課題と対応方法

社会福祉に農業を生かすという、全く新しい考えの実践であり、スタッフも勉強している。流通、販売の部分でまだ難しさは残るものの、障がい者の自立という部分で示唆することが多く、全国の自治体から毎年60件程度の視察があり、関心の高さがうかがえる。

今後の展望

あくまで社会福祉が目的であり、単純な規模の拡大は追っていない。事業を長く継続させることが目標だ。大手スーパーからの引き合いもあるが慎重に対処している。障がい者には生活必需品や食品の購入、グループホームの利用転入などで、地域経済の活性化に貢献できるようにしている。

平成29年度 6次産業化優良事例表彰



阿武町長へ報告



山口県農林部長へ報告



萩市長へ報告



あぜ道の草刈り作業を行う就労継続支援B型の利用者と職員。



1



3



2



4

1. 雪深い阿武事業所。今年の冬は雪が多く大変だった。
2. 5月に田河川に沿ってこいのぼりが泳ぐ。
3. 朝礼で作業内容を確認する利用者。
4. 昼休み天気の良い日は外でお弁当。

阿武の人のこの一言で、
私たちは何倍もの勇気もらい、
励まされています。



毎日30人もが
この土地に
出勤してくれるだけで
活気が出るよ！

お気軽に御問い合わせ下さい！
社会福祉法人 E.G.F のんきな農場 阿武事業所
住所：山口県阿武郡阿武町福田上1326
TEL：08388-5-0050
FAX：08388-5-0070
MAIL：abu@e-f.jp



15.7畝

阿武町の のんきな農場

abuだより

〔農業法人福の金耕作面積132ヘクタール
15.7ヘクタール・・・この数字は
一体何の数字だろうか。実は6次産業
化と農福連携の推進を行う就労継続支
援B型事業所が今年度から請け負った
水田あぜ道の草刈り作業の数字だ。』
ほとんどが法面の草刈りで、4〜9月ま
でに月1のペースで5〜6周廻るので
大変です。』と担当者は新しい取り組み
について話す。

草刈の他に田植えの作業の手伝いを
している。田植え機1台につき、利用
者が2名1組で補助につき、苗を田植
え機に補充したり、肥料を補充する事
が主な作業だ。今年から新たな作業と
して、ハリス育苗中の苗をヒストンで
運搬する軽トラに積み込む苗出し作業
も行っている。

就労継続支援B型の利用者は「あと
どれくらい刈るんですか？」「早く頑
張って刈らんにやいけん。」と前向きな
発言が初めての1〜2週間はあるが、
1ヶ月も経つと「まだやるん？」「い
つ終わるん？」という声も出てきた。

「請け負っている面積はまだまだ全体
の面積の12〜13%。10年以内に全部の
面積を請け負うことを目標に考えてい
るが、実現するための体制整備が出来
るか不安。でも、農福連携を進めてい
けばいくほど、利用者が地域の中で働
き手として必要とされることが実現で
き、これからは楽しみです。」

